

自 己 評 価 票

1階ユニット

【自己評価の意義・目的】

- 自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことによりサービスの質の向上を図るシステムの一つです。
- サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や、アンケート調査等による利用者からの声の反映、等が相まって実施されることにより、達成されるものです。
- この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

【自己評価の実施方法】

- 運営者（法人代表者等）の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
- 「評価項目」ごとに評価をしてください
- その判断した理由や、根拠のポイントを記入してください。
- 少なくとも年に1回は、自己評価を実施してください。
- 優れている点や、改善すべき点等の特記事項についても、別途（任意様式）を作成してください。
- 改善すべき事項については、改善のための計画（任意様式）を作成してください。
- 利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように利用申込書、又は、その家族に交付する重要事項証明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどして評価結果を積極的に公表してください。
- 評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

地域密着型サービスの自己評価項目の構成

	項目数
I 理念に基づく運営	22
1 理念の共有	3
2 地域との支えあい	3
3 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4 理念を実践するための体制	7
5 人材の育成と支援	4
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援	6
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1 一人ひとりの把握	3
2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4 本人が、より良く暮らし続けるための、地域資源との協働	10
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1 その人らしい暮らしの支援	30
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入年月日	平成 20 年 7 月 19 日
法 人 名	株式会社 アスキーネット
代表者名	代表取締役 赤尾 光夫
事業所番号	2770108922
サービスの種類	認知症対応型共同生活介護
事業所の名称	『あんしん日置荘』の里
ユニット名	1階ユニット
所在地	堺市東区日置荘原寺町402-1
記入者名	入江 勝代
電話番号	072-288-5123

自己評価票

1階ユニット

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
----	-----------------------------	----	------------------------------

I 理念に基づく運営

1 理念と共有

<input type="checkbox"/>	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設より二年が過ぎ、事業所理念を振り返りながら、スタッフがケアに取り組みながら理念の理解を深められるよう取り組んでいる最中である。	「介護サービス提供理念」を基に、家庭的な環境と地域住民との交流機会を基盤の確立を図りながら、理念の実践を目指したい。
<input type="checkbox"/>	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の実践の中で、ご本人により近づき『寄り添い』『共感し』『支持する』姿勢を求めている。	管理者、計画作成担当者、並びに職員との間において『寄り添い』『共感し』『支持する』姿勢を実践してゆくことが、課題である。
<input type="checkbox"/>	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の面会時や入所の面接時、運営推進会議の場で、わかりやすく伝えるようにしている。	○ 地域運営推進会議や家族との面接時の機会等を活用して、この理念をわかりやすく伝える為の取り組みをする。

2 地域との支えあい

<input type="checkbox"/>	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な、つきあいができるように努めている	散歩や外出の機会に、気軽に声をかけコミュニケーションをとってゆくようにしている。	万が一の「災害対策」への備えとしても、近隣の人々にいざという時に、手助けをしてもらえるような顔なじみをつくるよう努める。
<input type="checkbox"/>	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町会に入会、月に一度、町会主催の「いきいきサロン」への定期的な参加、地域住民所有の田畑で穀物の収穫作業への参加等、声をかけていただいている。今後もこの活動を通じて丁寧な関係を構築してゆきたい。	今後も継続して実践してゆきたい。
<input type="checkbox"/>	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域運営推進会議等で話題となるが、実践には至っていない。	何から実践すべきか具体的な企画には至っていない。

3 理念を実践するための制度の理解と活用

<input type="checkbox"/>	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月一回の定期会議の場で、その都度浸透するように努めている。	引き続き、職員への周知・浸透を図っていく。
<input type="checkbox"/>	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	形式的な内容にとどまっているのが現状である。	率直な意見の集約が出来るように努めて行きたい。
<input type="checkbox"/>	○ 市町村との連携 事業所は市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる	今後の課題とする。	目的に叶うような質の確保を図りたい。
<input type="checkbox"/>	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、参考書籍を読んだりしながら、機械あるごとに話し合っている。	全職員への周知を図る。

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	拘束・虐待には注意を払っている。	全職員への徹底を図る。
4 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と、納得 契約を結んだり、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を得ている	入居・解約の際には、必ず事前説明を十分に言い、疑問や不安な事を尋ね、理解や納得をして頂いている。	引き続き努力する。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が面会に来られた際に、職員との会話の機会を設定し、意見の集約に努めている。	地域運営推進会議のテーマにも取り入れ、運営に関する意見等を反映する。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的、及び、個々にあわせた報告をしている	日頃の暮らしぶりについては、家族等が訪ねて来られた機会を捉えて、情報提供を行うように努めている。	家族には安心感を持って頂けるよう、状況に合わせて個別の報告を行っている。今後は定期的な報告が出来るよう取り組んでいきたい。
15	○運営に関する家族等、意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	13 と同様	13 と同様
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の定例会議、職員間の連絡帳を通じ、広く集約する事とし、改善につなげる努力をしている。	より努力してゆきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや、勤務の調整に努めている	今後の検討課題である。	介護スタッフの人員確保と、レベルアップに努めたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている	法人内における人事異動や離職の際には、利用者に混乱が生じない程度の説明を行い、職員間の情報の共有を図っている。	法人内の人事異動、離職は避けがたく、その都度利用者・家族への説明や関係団体への配慮を行い、ケアの継続性のため人材確保・離職抑制の方策を検討してゆきたい。
5 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の年次計画に沿って研修の機会を設け、報告書提出を義務付けることにより習熟度を測っている。	○ 地域密着型サービス事業所としての現場研修、及び外部研修への計画的な参加が課題である。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会や連絡会などに参加し始め、連携を深めつつある途上である。	今後、人材育成やサービスの質の向上に取り組んでいきたい。

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や、環境づくりに取り組んでいる		今後も工夫や、環境作りに努めたい。
22	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		話しやすい雰囲気づくりを心掛けながら、今後も取り組んで行きたい。

II 安心と信頼に向けた関係づくりと、支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

23	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに、本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を、本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	面談、施設見学、体験入居等を提案して、納得した状態で入所していただいている。	引き続き留意する。
24	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を、よく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	相談、面談の機会を繰り返し持ち、関係機関と協働しながら、本人、家族が納得し、了解が得られるような方策を提案している。	今後も本人の事情を優先した面談を中心に提案してゆきたい。
25	○ 初期対応の見極めと、支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、関係機関と連絡・調整しながら、必要なサービスを提供してゆけるよう努めている。	引き続き、留意する。
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら、工夫している	利用者アセスメントから、本人の「馴染み」のある事柄から、徐々にサービスを展開している。	引き続き留意する。

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に『相手の立場』に立って考えるよう指導すると共に、日々の関りの中でその都度共有できるよう努めている。	引き続き努力する。
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に行い、最善の方法で対応していくことを連絡している。家族の協力が必要なときは、その都度要請している。	引き続き努力する。
29	○ 本人と家族の、よりよい関係に向けた支援 これまでの本人と、家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前、入居後、家族との談話の機会を設け、その理解に努めている。	引き続き努力する。
30	○ 馴染みの人や場との、関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないう、支援に努めている	個人の状況に応じ対応している。	引き続き努力する。

([] 部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のコミュニケーションがスムーズに行えるよう、必要があれば職員がさり気なく間に入っている。	引き続き努力する。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用 (契約) が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	本人、家族に対し、必要に応じて連絡・訪問するなど、関係の継続に努めている。	引き続き努力する。

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員とのコミュニケーションを通じ、できる限り聞き入れる努力をしている。	職員一人ひとりが利用者の意向を尊重し、曖昧にせず「実現は無理」との視点に立たず努力してゆきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアカンファレンスにおいて個別に把握するよう努力している。	アセスメントにおいて「生活暦」を作成し、より把握してゆきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	(同上)	(同上)

2 本人が、より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員の思いや、意見・アイデアが反映された介護計画の作成に努めている。	理想とする介護計画の作成には至っていないが、「気付き」「アイデア」「意見」が反映された介護計画の作成に努力したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケアカンファレンスにおいて個別に把握するよう努力している。	毎月一回定期的にカンファレンスを実施してゆく中で、現状を把握した上で、臨機応変な見直しに努力したい。
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の連絡ノートを活用することで、対応している。	(同上)

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望にその都度、対応している。	より一層努力する。
----	---	-----------------------	-----------

4 本人がよりよく暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化、教育機関等と、協力しながら支援している	民生委員、ボランティア等の受け入れを実施している。	より一層努力する。
----	---	---------------------------	-----------

([] 部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○ 印	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今後の検討課題とする。	具体的な事例が発生していないのが現状。今後の連携課題である。
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターより事例が持ち込まれることもあり、協働している。	今後も引き続き継続してゆく課題である。
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族の希望を大切にし、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況を事前把握し本人・家族が希望する医療機関に受診してもらっている。事業所の協力医療機関に移行する場合は本人家族に十分同意を得ている。	引き続き努力してゆきたい。
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等、認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や、治療を受けられるよう支援している	事例があり、本人と共に認知症専門医を受診し、職員が相談したり、利用者が診断を受け治療を継続している。	今後も必要に応じて対応してゆきたい。
45	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員、あるいは地域の看護職と、気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤看護師・訪問看護師との医療連携により相談しているが、現実には常時の相談が難しい為、より連携を密にしてゆきたい。	即応体制について、今後の課題である。
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は足を運び、病状の把握を行い、病院関係者と退院後の対応について話し合っている。	引き続き努力してゆきたい。
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から、本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と、繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医・家族とよく連絡を取り合い、情報の共有に努めている。事業所として「看取り指針」を作成し、医療連携の下、早期の対応が出来るよう体制整備を行ったところである。	現在、事例が発生していない為、今後判断対処の力を育成できるよう学習が必要である。
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が、日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともに、チームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて、検討や準備を行っている	(同上)	(同上)
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で、十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人・家族の了解により、個人情報の取り扱いに注意しながら、提供と共有に努めている。	引き続き努力してゆきたい。

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
-----	-----------------------------	--------	----------------------------------

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援

(1) 一人ひとりの尊重

50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りや、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	虐待にもつながる問題であり、事業所全体で細心の注意を払っている。	より一層努力してゆきたい。
51	○ 利用者の希望の表出や、自己決定の支援 本人が、思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり、納得しながら暮らせるように支援している	本人の意向を十分に把握する支援を行っている。	引き続き努力したい。
52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや、都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務スケジュール優先ではなく、利用者の暮らしを中心に支援を行っている。	柔軟な対応が出来るよう、職員の創意工夫を求めてゆきたい。

(2) その人らしい暮らしを続けるための、基本的な生活の支援

53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみや、おしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(同上)	(同上)
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食時が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実行出来ていないのが現状である。	今後の課題としたい。
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを、一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している	今後の課題としたい。	今後の課題としたい。
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗や、おむつの使用を減らし、一人一人の力や排泄のパターン、習慣を活かして、気持ちよく排泄できるように支援している	利用者一人ひとりの排泄リズムの把握に努めている。	引き続き努力したい。
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を、職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意向に沿うよう支援している。	引き続き努力したい。
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣や、その時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している	十分配慮し、安息していただけるよう支援している。	引き続き努力したい。

(3) その人らしい暮らしを続けるための、社会的な生活の支援

59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや、喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護計画・週間スケジュールに沿い、努力している。	引き続き努力したい。
----	--	--------------------------	------------

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○ 印	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるように支援している	使える方は個人的に所持していただいている。	引き続き支援してゆく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎず、一人ひとりの、その日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換・ストレスの発散・五感への刺激の機会と位置づけ、実践している。	引き続き支援してゆく。
62	○普段、行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい、普段は行けないところに、個別あるいは、他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一部の利用者は実践されておられる。	今後の検討課題としたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に、本人自らが電話をしたり、手紙のやりとりができるように、支援している	機会の確保に努めている。	引き続き支援してゆく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面談時間について、柔軟に対応している。	引き続き支援してゆく。

(4) 安心と安全を支える支援

65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。また、言葉の拘束にも注意するよう職員同士が気をつけている。	より一層、配慮する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現実的には一定の時間、施錠せざるを得ない状況にある。	施錠せずに安全に過ごせる工夫を図りたい。
67	○利用者の安全確認 職員は、本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜、通して利用者の存在や、様子を把握し、安全に配慮している	職員一人ひとりが気をつけている。	引き続き配慮してゆく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を、一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所の徹底を図っている。	引き続き取り組む。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の介護・申し送り、ひやりはっと・利用者用ノート・職員間の連絡ノート等を活用し、職員一人ひとりが気をつけて介護するよう取り組んでいる。	○ 今後は、地域運営推進会議を通じて、事故対策委員会の設置を検討してゆきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や、初期対応の訓練を定期的に行っている	今後の課題とする。	地域消防署との連携により、勉強会を企画。

(部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項	目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今後の課題とする。		今後の課題とする。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	職員間で日々話し合っている。		引き続き努力する。

(5) その人らしい暮らしを続けるための、健康面の支援

73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や、異変の発見に努め、気付いた際には、速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りの徹底、連絡ノートで把握するよう努力している。		引き続き努力する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や、副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている	把握の度合いが一定していない。今後の検討課題とする。		勉強会を実施し、今後、一層努力したい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や、身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄・水分・食事量のチェックを行い、毎日把握に努めている。		引き続き取り組む。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや、臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や、力に応じた支援をしている	毎食後、口腔洗浄の声かけを行っているが、介助が必要な方への口腔洗浄が徹底されていない。		口腔清拭・洗浄の介助を徹底させたい。
77	○栄養摂取や、水分確保の支援 食べる量や、栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の観察から一人一人に合った支援を行っている。		引き続き支援してゆく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や、対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ・疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	所内環境整備に努め、消毒を実施しているが、手洗い、うがいの励行が徹底されていない。		より一層努力し、取り組む。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	委託事業者と連携をとり、また、特に台所の衛生管理に気配りしている。		引き続き配慮する。

2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	十分配慮した設計である。		玄関周りの植物に配慮したい。
----	--	--------------	--	----------------

([] 部分は外部評価との共通項目)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂には季節の花や環境整備に取り組んでいる。	引き続き工夫をする。
82	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の思いに沿った気配り・支援を行っている。	引き続き工夫をする。
83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に当たっては出来る限り馴染みの品々を持ち込んで頂く。	
84	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや、空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じて、こまめに行っている	常に職員がサポートするよう心掛けている。	

(2) 本人の力の発揮と、安全を支える環境づくり

85	○ 身体機能を活かした、安全な環境づくり 建物内部は、一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるように、工夫している	配慮した設計であり、常に職員がサポートするよう心掛けている。	
86	○ わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりの、わかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	不安・混乱・失敗の無いように工夫している。	
87	○ 建物の外廻りや、空間の活用 建物の外廻りや、ベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	植木の手入れ等、職員がサポートしながら支援しているが。	より工夫し、努力したい。

V サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	① ほぼすべての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで、生き生きした表情や、姿が見られる	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で、不安なく過ごせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを、よく聴いており、信頼関係ができています。	○	① ほぼすべての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場や、グループホームに馴染みの人や、地域の人々が訪ねて来ている	○	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが、広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスに、おおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等は、サービスにおおむね満足していると思う	○	① ほぼ全ての家族が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点や、アピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中で利用者が暮らせるように、日々努力している。今後も、利用者・家族が安心してそれぞれの暮らしを維持してゆけるよう努力してゆきたい。